

第1回福島県双葉郡子供未来会議 実施報告

1. 主催

福島県双葉地区教育長会

2. 日時・場所

平成25年9月23日（月） 10:00~16:30

楡葉町立楡葉小中学校中央台仮設校舎体育館（福島県いわき市）

3. 参加者

56名

- ・福島県双葉郡の児童生徒 15名
- ・同保護者 5名
- ・その他関係者（双葉地区教育長会、福島大学学生、福島大学関係者、行政関係者等）36名



4. 概要

双葉郡8町村の小中高校生15名が集まり、双葉郡教育復興ビジョンの具現化に向けて、保護者5名と福島大学学生ボランティアをはじめとした教育関係者36名も加わりながら、ワークショップを行った。子供たちをはじめとした参加者は、何回かの席替えを繰り返し、対話を重ね、双葉郡の学校における「最高の学校とは何か。最高の教育とは何か」について多くの意見や思いが話し合われた。

「動く授業」をキーワードとして話あったグループでは、一方的な授業ではなく生徒の自主性や主体性を大事にするような授業やカリキュラムがあってほしい等の意見が出された。

「世界とつながる」をキーワードとしたグループでは、世界と協力しなければ進まない双葉郡復興の現実を踏まえて、学校も積極的に世界につながるべきであり、海外留学等の体験活動と日常のカリキュラムは密接に結びつけた学校の姿が話し合われた。また、世界とつながる上では自信や主体性を持つような教育をしてほしいという声が出された。

「体験と実践を通じた学習」や「楽しいことから勉強を見つける」をキーワードとしたグループでは、興味や関心のあることから勉強を始めることの重要性や、新たな経験から刺激を受けることが復興を担う人材育成の出発点となる等の、動機付けの大切さについて議論が行われた。また、ICTを活用することで関心を持って学べるようにしてほしいという声も聞かれた。

「どんな先生がいいか」では、おもしろくて真剣な先生が良いという声や、子供自身も先生に

要望を伝え自発的に動くことが大切という指摘があった。

保護者からは、「歴史の継承」として、子供たちに双葉郡の文化や震災・原発事故のことを継承する重要性の指摘があった。大人でも答えが出ていない復興の課題について、子供たちが主体的に学び取り組む学校になれば、リスクをチャンスに変えることが出来る可能性があると、双葉郡教育復興ビジョンへの期待の声も聞かれた。

また、各グループでは、こうした子供未来会議で多様な意見を交流させることも重要な体験と学習の場であるとの指摘が相次いだ。

終わりに、森下福島県教委教育総務課長及び千葉福島大学人間文化発達学類長より、参加者の積極的な議論への感謝と、今日の議論を実現させていくという趣旨の講評が行われた。

閉会にあたり、武内双葉地区教育長会長（大熊町教育長）から、主催者として参加者及び関係者に御礼を述べられた。「子供たちが個人の立場を超えて双葉郡の教育をどうするかを話し合いができ、これからの双葉郡の新しい学校について話ができた。主体性のある子供たちを育て、片足は双葉郡のため、もう一方の足は世界へ羽ばたく人材を育てる。今日の意見は双葉郡内の先生達に伝え、明日から実行出来ることは明日から実行する。先生の一方的な授業ではなく、子供たちの主体性を重視した「動く授業」の実践をしていくと誓う。みなさんも自分から動いて授業をしてほしい。」と子供たちにメッセージが述べられた。今後も対話の場を継続的に設けていくことが確認され、閉会した。

5. 主な意見

(1) 動く授業

「動く授業」とは、身体を動かす体育の授業ではなく、グループ学習など生徒が自ら動くことのできる授業のこと。一方的な授業ではなく、電子黒板等を使って勉強したり、グループでの話し合いをメインにして授業を進めたりするような授業がいい。一方的な授業では、集中力が続かないので、生徒同士や先生と一緒に調べて勉強していく授業が望ましい。学問的な興味関心を持っている子供も居るため、その関心を尊重していければ良い。今日のような子供未来会議でも関心のある内容では集中力を持って何時間も話し合うことが出来る。

(2) 世界とつながる

双葉郡の復興は世界と協力していくことが必要であり、双葉郡の学校も世界とつながっていくことが必要である。世界とつながるには、英語を習い、外国のことを勉強することだけではなく、一番大事なのは「笑顔」で世界とつながることある。笑顔で接するためには積極性、主体性、やる気も必要である。双葉郡から避難して失った主体性と自信を取り戻すためには、出来ないことを指摘する学校ではなく、得意なことを褒めて伸ばす学校とすることで良い循環が創れる。また、一度海外を経験する（放り込む）ことで視野の狭さを実感するとともに、目的を見つけることにつながる。帰国後に学校で学び、その後再度海外でリベンジする（一度目の海外体験では出来なかった目標を達成する）という循環が良いのではないだろうか。海外留学等の体験活動と日常のカリキュラムは

密接に結びついている必要がある。海外とは交流や発信するだけでなく、共に協力して何かを創りあげる体験をすることも重要である。

(3) 体験と実践を通じた学習

机に縛られた勉強だけではなく、実際に体験をし、実践していく学びが大切である。自分とは違う生活を送っている人との交流も大切である。英語の授業でも語学を学ぶだけではなく日本とは違う文化に触れたり、新たな交流の場を持つことで、輪を広げることができる。新たな経験から刺激を受けることが、復興を担う人材育成の出発点となる。こうした子供未来会議で多様な意見を交流させることも重要な体験の場である。

(4) 楽しいことから勉強を始める

楽しくない学校との例として「先生が怖い」「勉強ばかり」「せまい・体育館がない」「しゃべらない」等を挙げ、逆にみんなが楽しめる学校とは何か考えた。興味や関心のあることから勉強を始めることで楽しい学校になると考えた。サッカーが好きな子は、サッカーの得点では算数を、サッカーの世界大会などの試合では、相手チームの国のこと考え、社会を勉強できる。また、色々な人と話すために英語や国語を楽しく勉強することができる。楽しいことにつなげられる。また、ICTを活用して関心を持てる形で勉強をするという案も挙げた。

(5) 歴史の継承

故郷を失ってしまった子供たちのために、大人である我々に何ができるか。例えば、お墓など先祖が守ってくれていたものや、文化をどうやって残し伝えていくのか。語り継いでいくために、新聞やテレビなどメディアでの報道を記録しておくことをしている。100人子供がいたら100人のストーリーがある。歴史を継承していき、そこから新しい歴史を作っていく必要がある。大人でも答が出ていない復興の課題について、子供たちが意識して自ら何かに取り組むようになれば、リスクをチャンスに変えることが出来る可能性がある。双葉郡のビジョンや中高一貫校もそうした場としていきたい。

(6) どんな先生が良いか

おもしろくて真剣な先生がいい。話を聞いてくれて、ダメなところをしかってくれる先生がいい。そのためには、子供自身も先生に要望を伝え自発的に動くことが大切。

《参考：参加者詳細》

○参加者 56名

・福島県双葉郡の児童生徒及び保護者 合計20名

葛尾村 0名（小学生0、中学生0、高校生0、保護者0）

檜葉町 9名（小学生2、中学生5、高校生1、保護者1）

大熊町 2名（小学生0、中学生0、高校生2、保護者0）

浪江町 0名（小学生0、中学生0、高校生0、保護者0）

双葉町 5名（小学生2、中学生0、高校生0、保護者3）

広野町 0名 (小学生0、中学生0、高校生0、保護者0)

川内村 4名 (小学生2、中学生0、高校生1、保護者1)

富岡町 0名 (小学生0、中学生0、高校生0、保護者0)

・その他関係者 36名

福島県双葉郡8町村 教育長、各町村教育委員会関係者、

福島大学ボランティアスタッフ、福島大学関係者、福島県教委、文部科学省

《参考：日程詳細》

平成 25 年 9 月 23 日 (月) 10:00~16:30

10:00~10:10 開会挨拶 楡葉町高橋教育長

10:10~12:00 午前の部 (ワールドカフェ)

10:10~10:15 午前の部進行説明

10:15~10:45 「双葉郡の私達にとって最高の学校・最高の教育」について
小学生、中高生、保護者、大人のグループに分かれて話し合い

10:50~11:45 グループを移動、上記テーマについて年齢の区別なく話し合い

11:45~12:00 元のグループに戻って議論の共有

12:00~13:00 休憩

13:00~13:20 双葉町半谷教育長より「双葉郡教育復興ビジョン」の説明

13:20~15:00 午後の部 (オープン・スペース・テクノロジー)

15:00~16:00 イブニングニュース

16:00~16:10 アンケート記入

16:10~16:20 講評 (福島県教委森下課長、福島大学千葉人間発達文化学類長)

16:20~16:30 閉会挨拶 大熊町武内会長

